

# めぐみの学校の子

恵田小 校長室だより

令和元年九月二十七日

No. 136

## 「プログラミング学習」について

聞きなれない言葉だと思うが、来年度から本格的に「プログラミング学習」を行っていく。今年度は、その準備期間で、岡崎市の方針として、本校でも先行実践を行っている。何をどうやったらよいのだろうと手探り状態ながら、少しずつ進めているところだ。パソコンやタブレットのソフト・アプリを使い、命令を組み立て（プログラミング）、絵やロボットを動かしたり、問題解決のための手順を論理的に組み立てて考えたりする（プログラミング的思考）などの学習がそれにあたる。

外の先生に来ていただき、プログラミング学習の授業を見ていただいた。先週は、2年生の算数、今週は、5年生の図工、2年生の国語で授業研究を行った。「どういうこと」と思われるのは当然のことだ。この新しい学習は、小学校5・6年生で今年度より行っている英語のような教科（時間割に決められた時間を位置づける）ではなく、方法として取り入れられるもので、時間割に「プログラミング」という時間はない。



教科の学習の目標を達成するための「方法・手段」なのである。例えば、算数の筆算の学習の授業で、手順を示した図（チャート図）をつくることを方法・手段に、無駄のない、様々な状況に対応できるスマートな計算方法をきちんと身につけるといったことを達成するといったことである。

今後もそれぞれの学年で、学年の状況に応じて学習を進め、子供たちの学力向上につないでいく。

## 恵田っ子へ

「劇（げき）・音楽（おんがく）」

敬老会（けいろうかい）、稲刈（いねかり）が終（お）わり、おかぎっ子（こ）展（てん）の作品（さくひん）を作（つく）ったり、劇（げき）や恵田（えだ）（えだ）っ子ハーモニーの練習（れんしゅう）をしたりしています。恵田っ子一人一人（ひとりひとり）が主役（しゅやく）となって活躍（かつやく）します。それぞれの学級（がっきゅう）でめあてを決（き）め、それぞれの役（やく）や係（かかり）に責任（せきにん）をもち、取（と）り組（く）みましよう。まずは学級の「和（わ）」、そして、恵田小の「和」を強（つよ）め、さらにおうちの方（かた）、学区（がく）の「和」へと広（ひろ）げ、「めぐみの和」をつくりましよう。

恵田っ子ハーモニーのような学校全体（がっこうぜんたい）での音楽発表（はっぴょう）は、ほかの学校ではほとんどやっていません。たくさんのことが学（まな）べます。恵田っ子の「和」をハーモニーと劇に表（あらわ）しましょう。

